

絹の道と鑓水商人



みなさんは、絹の道と呼ばれる道が、八王子に残っているのを知っていますか？
「絹の道」と刻んだ石の記念碑がたてられている鑓水峠から、南へ下る約1.5kmの短い区間ですが、八王子の史跡として保存され、平成8年（1996）には全国の歴史ある道の中から特に昔の面影を残す道筋を選んだ《歴史の道・百選》に指定されました。
どんな歴史がある道なのか調べてみましょう。

絹の道のはじまり

絹の道の歴史は、安政6年（1859）の横浜港開港にはじまります。開港と同時に始まった外国との貿易の中で、輸出品の中心となったのが生糸でした。そして、八王子から横浜港へ大量の生糸を運ぶために使われたのが、絹の道でした。でも、当時はこの道は「浜街道」と呼ばれていました。「絹の道」という名称は、昭和20年代末に地域の研究者・橋本義夫氏らによって名づけられ、今ではすっかり定着しています。当時の生糸の主な生産地は、上州（群馬県）、甲州（山梨県）、信州（長野県）などでしたが、つくられた生糸の多くは、八王子の市に集められ、多摩丘陵をこえ町田をとおり横浜に運ばれました。

また、絹の道は、八王子に西洋文明を伝える道でもありました。

なぜ八王子は、運搬の基点になっていたのでしょうか

もともと八王子の周辺では、養蚕や機織りが盛んに行われていましたが、養蚕地帯の中でも横浜港に近く、江戸にも近いといった地理的条件に恵まれていました。そのうえ、商売がうまく、江戸時代から生糸の取り引きを盛んに行っていた鑓水商人と呼ばれた人たちの活躍も大きかったようです。

生糸はどのように運ばれたのでしょうか

当時は、まだ鉄道も自動車もありませんでしたので、もっぱら人々の肩に背負われたり荷車に積まれたり、牛馬で運ばれたりしていました。現在でも絹の道を歩いてみると、お椀のようにくぼんだ道が続いているところがあります。そのような道の形からも、当時の往来の激しさが想像できます。大栗川沿いには、道しるべもたっています。慶応元年（1865）に絹の道がにぎわっていた頃のもので、正面には八王子道、左側、はら町田・神奈川・ふじさわ、右側、はし本・津久井・大山ときざまれてあります。当時の人はここで道を確認していたのでしょうか。

このように、にぎわっていた絹の道も明治22年（1889）の甲武鉄道（今の中央線）の八王子までの開通や明治41年（1908）の東神奈川と八王子をむすぶ横浜鉄道（今の横浜線）の開通など新しい交通路が開かれると、その役割を終えていきました。



▲絹の道

鑓水商人

現在は、のどかな風景をみせる鑓水の集落ですが、当時は生系の取引で栄え、にぎわいをみせていました。鑓水は横浜への生系の積み出しに活躍した商人たちの根拠地で、彼らは、鑓水商人と呼ばれました。

鑓水商人は、横浜開港前からすではなやかに活躍していた生系商人で、鑓水の地が「江戸鑓水」と呼ばれるほどに繁栄させ、代々名を継いでいました。横浜港が開港すると、彼らは、それまでの経験をいかし、さらに富を増やしていったのです。鑓水商人として、平本平兵衛・八木下要右衛門・大塚徳左衛門・大塚五郎吉などの名前が知られています。

しかし、彼らの没落は早く、それぞれの事情のため、明治の中頃までには商人としての活躍を終えてしまいます。活躍の場を失っていった背景には、国の政策によって、機械製糸の大工場で作られた生糸が、大きな問屋の手に渡り輸出されるようになった時代の流れもありました。

彼らをしのび、昔を想像しながら、絹の道を歩いてみましょう

〔道了堂跡〕

絹の道の石碑がたつ大塚山公園には、鑓水商人らによって、東京浅草の花川戸から移し建てられた道了堂というお寺がありました。寺の礎石が残され、石畳が敷かれて、昔の位置を示しています。今は、とても静かなところですが、当時は、商人たちが行き来し、三軒ほどの茶店もあり大変にぎやかだったようです。ここで、旅の安全や商業の成功を祈っていたのでしょう。

〔八木下要右衛門家の屋敷跡〕

要右衛門は「石垣大尽」と呼ばれた豪商で外国人を接待するための異人館まで建てた人物でした。現在、絹の道資料館として石垣など一部が保存されています。その石垣は、相模川からひとつひとつ馬にのせて運んで来たという立派なものです。

絹の道資料館には、鑓水の移り変わりや、商人の活躍がわかる資料や写真が展示されています。ぜひ、行ってみましょう。

ほかにも、絹の道周辺には、諏訪神社、永泉寺、小泉家屋敷などみどころがたくさんあります。実際に歩いてみると、いろいろな発見があるでしょう。

絹の道資料館

所在地

八王子市鑓水989-2

TEL 042(676)4064

開館時間

3月～10月 午前9時～午後5時

11月～2月 午前9時～午後4時半

休館日

月曜日（祝日を除く）

月曜日が祝日の場合翌日、

年末・年始

入館料

無料

調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。

- *最初にかいてある数字は、本の背表紙についている分類（ラベル）番号です。
- *☆印のついてるものは、特に小学生におすすめのものです。

10-29 多摩の街道（下） 池上真由美／著 1991年

街道ごとに歴史やみどころを解説したもの。

21-05 OneTwoえいと（郷土雑誌）との号 えいと舎／編 2000年

市民によるコミュニティー雑誌。八王子の文化、伝統、人などが紹介されている。との号に、道了堂のことを中心にした絹の道についての記事がのっている。

☆21-20 ふるさとめぐり 東京都教育庁生涯学習部文化課／編 1983年

（『親子でたずねる東京の文化財 ふるさとめぐり』より）

市内の文化財についてやさしく解説したもの

☆21-20 大消費地が育てた桑都 樋口豊治／著 1991年

（『人づくり風土記 13（48）』より）

字が大きくやさしい説明。むずかしい言葉の注記もついている

☆21-20 浜街道「絹の道」のはなし 馬場喜信／著 2001年

小学校高学年から中学生、高校生のために書かれたもの。

21-20 絹の道 打越歴史研究会／編 1986年

写真や図や絵が多い。巻末に絹の道を中心にした八王子関係近現代年表つき。

☆21-29 郷土みてある記 八王子市生活文化部広報課／編 1995年

小学生の先生が、八王子の歴史や、関係の深い人物や動・植物、事柄を小学生にもわかるようにやさしく解説したもの。

21-31 広報はちおうじ 平成9年（2月1日号） 八王子市 1997年

絹の道の歴史やみどころがコンパクトに紹介されている。

インターネット情報

関東絹の道 <http://www.manabi.pref.gunma.jp/kinu/>

※ 絹の道とともに発展した地域や産業またそれに関わる人物などを総合的に紹介したサイト

絹の道と鑓水商人

参考文献を所蔵している図書館 ※2015年12月現在

表の中の○は貸出もできるもので、△は見たり、コピーしたりできます

タイトル	所蔵図書館					
	中央	生涯	南大沢	川口	北野	みなみ野
多摩の街道 下	○	○	○	○	○	
One Twoえいと 「と」の号	△		△			
ふるさとめぐり	△					
大消費地が育てた桑都	△					
浜街道「絹の道」のはなし	○	○	○	○		○
絹の道	○	△	○		△	
郷土みてある記	△	△	△	△		
広報はちおうじ 平成9年2月1日	△	△	△	△		